

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所名から‘ふれあい・みつめあい・ささえあい・ときの流れに逆らわず心のこもった見守りを‘というホームの理念はご利用者様、ご家族だけでなく地域の方々と共に暮らししていくということ目指してつくりあげている。	○	事業所として地域との‘ふれあい’の輪を広げていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者・管理者・職員は理念を毎朝、朝礼で確認しながら唱和し、実践することを心掛けている。また月2回のミーティングの際にご利用者様・ご家族・地域の方々との係わり合いについて話し合いをしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域のさまざま行事に参加し、今年初めての試みとしてホーム主催の催し物(エプロンシアター)に自治会長に協力いただき回覧板を通じ参加を呼びかけ、自治会長及び地域の方々にも参加いただくなど少しずつ地域の方々との交流を広めている。	○	地域の方々に参加しやすい催し物を提案して呼びかけをしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方からお花や野菜をいただいたりとしている。	○	気軽に遊びにきていただけるような雰囲気と声かけをしていきたい。また、地域の行事でご利用者がだしものを披露できるように支援していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会や夏祭り・盆踊りに参加し地域の方々と過ごす時間をつくるようにしている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所としては自治会を通じて地域行事への協賛をしている。また、事業所や職員が地域での暮らしにお役にたつことがないか等を運営推進会議のなかで自治会会長にお話して役立てることがあればその都度話をさせていただくようにしている。	○	運営会議で自治会長に職員の状況に応じて地域に貢献できることはしていきたい旨を伝えており、今後の関わりとして話し合いを継続していけるような活動をしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者が日常のケアを振り返り、確認するために、評価を行う事を職員に説明。全職員に配布し記入してもらいそれを運営者・管理者でまとめミーティングで検討し話し合い改善に取り組んでいる。	○	自己評価及び外部評価の結果をふまえて運営者・管理者のみならず職員全員で改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者・ご家族・自治会長・市職員の方々に参加していただき、概ね2ヶ月に1回開催している。参加者からはいろいろな立場からご意見やご質問をいただいている、自治会長より火災発生時の地元消防団との連携などについて助言をいただいている。	○	ご利用者様・ご家族共に同じ方だけではなく交代でご参加いただけるように呼びかけていきたい。また、ホームページやホーム便りでも公開していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員には運営推進会議に出席していただき、ホームの様子等お伝えする機会が多いため、高齢者福祉の観点からの要望や助言をいただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日頃より運営推進会議に出席していただいている市職員の方に職員ミーティングで市職員の方が作成された資料をもとにホワイトボードを使いながら制度をわかりやすく説明をしていただいた。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	”虐待”という事がどのような事なのか、また見過ごさないためにご利用者の声を聞き、身体状態の観察し異常が無いが、また気になる事は無いか毎日確認し小さな事で報告し情報の共有を職員全員で見過ごさないようにしている。	○	今後、ミーティングで定期的に資料を作成しそれに基づき内部研修していきたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や重要事項・運営規定等を説明する際、分かりづらいところは、具体例をあげて話をして疑問、質問に答えながらご理解いただくよう時間をかけ丁寧に説明するよう心掛けている。	○	ホームの運営理念と独自の方針を丁寧に分かりやすく不安がないように時間をかけて説明しご理解・ご賛同いただけるようにしていく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご利用者様とのふれあいの中で意見や不満を聞き取るよう心掛け、不満や苦情を聞いた時は、管理者へ報告し迅速に対応するようマニュアル作成している。	○	運営者・管理者だけでなく職員全員がご家族とのコミュニケーションを蜜にとり、些細なこともその都度丁寧に應對していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	一人を除き、ご利用者様の暮らしぶりは来訪された時に、介護記録を見ていただいたり、状態によっては随時連絡してお伝えしている。	○	ホームページの中でご家族限定でご利用者様の写真を閲覧できるようにしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱・公的な相談窓口のポスターを玄関に掲示しご家族からご意見等が出されたときは連絡ノートに記入し情報を共有すると共に会議等で対応策も話し合っって迅速に対応するようにしている。	○	日頃からご家族様と連絡を取りながら”言いやすい関係”を作っていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングを利用し職員の意見や提案を議題を話し合う機会をつくっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者やご家族の状況の変化に対し、運営者・管理者が中心となり勤務の調整を出来る限りおこなっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	調理等専門の職員を配置し基準以上の人員を配置する等職務条件の向上に努める。またレクレーション等の機会でご利用者様・職員共にユニット間の交流をしており1、2ユニットの職員全員が全てのご利用者様の状況の把握する為に情報の共有をおこなってご利用者様が混乱せず暮らしていける関係を築くように努力している		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用・募集に際して、性別・年齢等の制限を行っていない。面接の時は、運営者・管理者と面接を行い、採用対象者の印象・話し方・みだしなみ、意欲等を観察しながら話をして判断している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングや朝礼で介護する側の立場でなくご利用者様の側から視点で物事を考え、声かけ、お一人お一人がご家族にとってかけがえのない人であるという事、またふれあう事の大切さを話し親しみから馴れ合いなり言葉遣いが乱暴なら		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や事業者協議会主催の研修案内は、案内をし、玄関において奨励しているが、本人希望に任せているため参加はなされていない。今年よりミーティング時に外部から講師を招くなどして内部研修など取り組みを始めている。	○	職員個々にあわせた育成計画を作成してそれにそって育成していく。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接市や同市内のホームに運営上の相談、管理者研修またミーティングでの講演していただくなどを通じて交流している。また、運営者、管理者は、加盟している協議会のブロックの会合や研修に参加している。	○	加盟しているブロックの研修会へ運営者・管理者だけでなく職員参加できるようにしたい。また、ホーム間の懇親会や意見交換をしていきたい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフルームは、テーブルと椅子を置き職員が休憩時間にくつろぎ、職員間の親睦をはかれるようまた、仮眠ができるようソファをおいて自由に使用できるようにしている。また、勤務は、可能な限り個人の事情を配慮して勤務表を作成している。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	今年より、職員個々に自己評価をしてもらい自分自身の勤務状況など振り返り確認をするようにしている。それと平行して管理者、運営者が評価を行い職員個々の実績、努力目標を明確にしていくものに役立てていくことにしている。	○	職員ごとの育成計画を作成しホームとして個人の能力・知識の向上させていく。
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を前提の面接時にご入居するにあたり本人のご希望や不安なことまた、ご家族のご希望、不安な事をお聞きし、体験入居をしていただいたり、入居時に本人の馴染みの物を持参していただいで安心して生活していただいている。	○	ご利用者様がどのような生活を望んでいらっしゃるのか、ご利用者様、ご家族様と一緒に不安なくホームの生活ができるように丁寧に対応していく。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話での相談やホーム見学の際にホームでの生活の説明から利用時の不安な事、リスク、またご利用者、ご家族が困っている事やホームへの要望などお聞きしている。	○	ホームの運営方針など理解していただきホームでの生活での不明な点や、不安な事などがあればできるだけ個々に柔軟に対応していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要として いる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努め ている	相談を受けた際、今必要とされている支援をお 聞きする課程で見極めて、ご本人とご家族に 対応したのを他サービスの利用もご案内する など柔軟に対応している。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、 サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら 工夫している	相談から始まるホームに来ていただくホームの 雰囲気を感じていただいたそのうえで、ご本人 様、ご家族共に納得された後に体験入居してい ただきその時の様子などをご家族にお話してい る。また、入居後もご家族にご本人様の様子を 伝えている。ご利用者様にはレクリエーション等 を通じてご本人の好きな事、得意な事を見つけ	○	体験通所・体験入居を通じてホームの雰囲気 を感じていただき不安なく入居していただけるよ うにしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過 ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあ う関係を築いている	時にふと、自宅に帰りたいと、話されたり、現在 の自分自身のことを嘆かれ涙されたりとした時 など、職員はご利用者様の話を聞いたりしてさ しあげることによりいっそう距離が近くなり信 頼して話をし、愚痴なども言っていたけ るよう		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽 を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は日頃よりご利用者様のさまざまな場面に 接する機会がある為、普段の生活状況など記 録した介護記録を見ていただきそれを基に詳 しく説明したり、相談にのったり、ご家族の 要望等も聞	○	時と共にご利用者様の状態が変化している事 実を誠実に・正確にお話しチームでご利用 者様を支えていけるようにしていきたい。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関 係が築いていけるように支援している	ご家族と離れて暮らしていらっしゃるの で電話を掛けて話していただいたり、手紙 を代筆してさしあげたりとなるべくご家 族とかかわれる機会をつくるようにしてい る。また、遠方のご家族には、写真を送 付して近況をお伝えしている。	○	家族会を通じて交流できる機会をつくと ともにホームページでのホームの様子 などをお知らせしていきたい。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	ホーム入所まえから参加されていた地元の催 しやお祭りに参加できるよう同行したり、 ご家族の事情やご利用者様の希望、状 況に応じて近所のスーパーや車で20分 位の外出同行等支援している。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	同じ趣味をおもちのご利用者様が趣味を通 じての交流が出来るよう、また掲示物の 作成などの共同作業を係わり合いがで きるように職員が声かけしている。	○	ご利用者様が、どのような事を思い・考 えていらっしゃるのか会話の中で見 つけていけるようにしたい。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要 とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを 大切にしている	ご家族の事情等で退所となった方を移ら れた施設にうかがい様子を拝見したり、 不定期ではあるが、行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の言葉、日々の行動や表現から汲み取るようにしている。	○	職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心を持ちコミュニケーションを通じて把握しそれをケアマネジメントに取り入れていく。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の入居時のアセスメントや職員が入居者様やご家族との会話した内容等を記録している。	○	ご利用者様の昔の生活などをご家族あらかお聞きし出来るだけ詳しい情報をいただけるような機会を作りセンター方式に取り組んでいきたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者様とのふえあいの中で言葉や行動や職員からの情報、介護記録等により把握している。	○	1日の生活リズムの記録やご利用者様の行動から全体像を把握しセンター方式に取り組んでいく。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員に問題点や気づき等をだしてもらい介護記録にファイルして職員がいつでも閲覧できるようにしている。	○	ご利用者様・ご家族・職員の意見、アイデアを出し合いそれを基に介護計画を作成し職員全員で共有していく。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族との面会時に要望や意見が聞ける様、職員が積極的に声かけしている。	○	ご利用者様・ご家族様の要望やご利用者様の状態の変化に応じて介護計画を見直していく。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄・食事量・散歩・レクリエーション等、ご利用者様個人の状態を記入してある介護記録を計画の見直しに生かしている。	○	介護記録の情報を職員間で共有し記録を基に介護計画を見直し、評価していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関の医師による週1回の往診や提携機関の歯科医師による週1回の口腔ケアや口腔体操に来ていただいている。また、緊急時は、協力医療機関の医師に往診していただいている。また、必要に応じて専門医への紹介もいただいているなど医療連携体制は整っている。	○	認知症の進行に応じて専門医との連携をとっていききたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者様と職員参加の防災訓練に消防署より指導に来ていただき、訓練での注意点など指導していただき目的をもって訓練をおこなっている。また、非常持ち出し袋に非常食・懐中電灯・小銭・救急箱等入れ、非常用の水も備蓄して		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	加齢と共に入れ歯が合わなくなったり、誤嚥の危険性が高まるうえで予防することと目的で歯科医師による口腔ケアを取り入れご利用者様個々に応じたケアを指導していただいている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市職員の方に高齢者の権利擁護について話していただき高齢者が置かれている状況やどのような支援が必要なのか、課題は何か等話をいただいた。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が、事業所協力医療機関で受診されているが、距離、ご家族の事情やご利用者様の状態に応じて職員が同行して受診できるようにしている、また、職員が同行できない場合やご家族の希望、事情により同行サービスなども紹介している。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の講演や受診時に相談し、認知症に関する診断や、対応の仕方など話していただいている。	○	認知症の専門医と連携してご利用者様をご家族様と一緒に支援していききたい。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護師にご利用者様の体調、薬の管理など相談している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご利用者様が入院した際、退院に向け担当医師、看護師、理学療法士と連絡をとり情報を受け退院後のホームでの生活支援計画などに役立っている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一昨年ホームで看取りを経験している。現在も家族・主治医・看護師等関係者と話し合いを行っている。ご家族の意向・主治医の診断等話合す機会を作っている。	○	全てのご利用者様・ご家族様に終末期のあり方について話し合いをしていく。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご利用者様の状態等、協力医療機関の医師往診に個々について相談し、ホームでできることは職員全員で行い、できないことは医師・ご家族等に相談し協力しながら対応している。	○	重度化や終末期にむけてご利用者様・ご家族様の意思確認・ホームに「できること・できないこと」見極めなどホーム・医師・ご家族様と話し合いながら対応していく。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご利用者様・ご家族様の事情等考慮し、移り住む際の情報提供など行い退所後に訪問するなどしている。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者は、人生の先輩であるという尊敬を持ちご利用者様親しみや慣れ合いからご家族と同じような言葉遣いにならないように指導している。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は、業務にご利用者様を合わせるのではなく1日の流れの中でご利用者様の意向を聞き尊重しながら個々のペースにあわせることを心掛けながら支援している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなど皆さんと一緒にするのが苦手な方は、無理をせず、ご利用者様本人がやりたいことをしていただけるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝、お化粧したいと話されたご利用者様には、お化粧をするお手伝いをしたり、爪にマニキュアを塗ってあげたり、ご希望で美容師さんに来ていただいたり同行したりして支援している。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に食べたい物を聞いたり下ごしらえのお手伝いをさせていただいたりしている。また、カレーライスの付け合せのらっきょうをご利用者様と共に漬けてそれをお出ししている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族様からお預かりしたご利用者様のお菓子や梅干等はご希望に応じてお出ししている。また、ご利用者様からのリクエストに応じて手作りのおやつもお出ししている。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者様個々の残存能力を生かした支援を行っている。また、状況の変化があった場合は職員全員で対応策考えその都度ご家族にお話し対応をしている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を変更したり、入る順番や好みのお湯の温度などできる範囲で楽しめるように支援している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者様個々の状態や希望に応じてお昼寝をしていただいたり、なじみの寝具を持ち込んでいただいたりご自分で就寝時間を決めていただくなど個々を重視して安心してお休みいただけるように支援している		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	色鉛筆で絵を描いたり、川柳や習字を色紙に書いていただきホームの廊下に掲示したり、季節やイベントの飾りつけ等思い思いのものを作っていたり、浪曲が好きの方には誕生日会で披露していただくなど個々に合わせた楽しみができるように支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口預かり金の中からお利用者様のご希望をご家族様に伝え承のうえで買い物に同行したり、ご家族様の代理で買い物に行くなど可能な限りご希望に添えるように支援している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近所の神社などに散歩に行ったり地域の盆栽会の様子を見に行ったり、地域の祭りなど体調など考慮しながら出かけるように支援している。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に1回ご利用者様・職員との旅行にご家族様をお誘いしてご利用者様とご家族様との思い出となるひとときを作るよう支援している。また、ホームで外出する機会があるときもご家族様に参加の呼びかけをしている		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族と電話で会話ができるように、ご利用者様のご希望に応じている。また、手紙の代筆や代読などして個々の状況に応じて支援している。	○	ホームページを活用してご様子など伝えていきたい。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご利用者様のご家族・友人・知人等いつでも来ていただけるようにしている。また、仕事等で昼間に訪問できないご家族様にはあらかじめ連絡していただいて夜間訪問などご家族のご事情にもできる限り対応している。	○	ご家族様・ご友人等を昼食会やイベントにお誘いして一緒に過ごしていただける機会をつくりたい。
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には身体拘束をとはどういう事なのかをミーティングや朝礼を通して話をしている。職員全員話し合いで拘束のない支援に取り組んでいる。	○	内部研修等で具体例を取り上げながら知識を高め、身体拘束のないケアに取り組んでいく。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず見守りを重視としている。夜間は玄関、窓に施錠している。居室も施錠していないがご利用者様のペースに合わせて見守りして安全に生活していただけるよう職員全員で見守り重視を心掛けている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、ご利用者様の居室に入るときは、在・不在に関係なく声かけしたり、ノックをしたりして入室している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要なものは職員で管理保管している。工作などで使うハサミなどは、職員の見守りする中で使用していただいている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ご利用者様個々に応じた方法で、事故防止のための取り組みを職員全員で取り組んでいる。また、事故発生後再発防止検討会議を開き事故の再発防止に役立てていくようにしている。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応をマニュアル化しておいてあり、急変時の対応ができるようにミーティング等で確認している。	○	内部研修を通じて訓練を行ってほしい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で自治会長より地域の消防団に依頼してすぐに駆けつけていただけるように話していただいて協力が得られる体制をとっていただいている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族様が訪問された時に、介護記録を見ながら気になる事、起こり得るリスクについてお話ししている。また、職員は状況の変化等があれば、朝礼で話対応策を考えそれをご家族様に説明し了承を得るようにしている。	○	入居前からの状態の変化などに伴うリスク等お話ししてご家族様と職員が一緒になって話し合っ ていきご理解いただけるようにしていきたい。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、体温・血圧・脈を測定し体調管理に役立てている。また、体調の変化等がある時は、管理者に相談の上協力医療機関に連絡し往診していただくなど迅速に対応している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様個々に薬局より提供の説明書を入れ、薬剤ファイルを作成し使用している。また、協力医療機関提携の薬局の薬剤師の方と連絡を取り相談・服薬指導していただいたりしている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員全員で排便の有無を確認すると共に水分量も注意している。、排便確認困難な方は、“がんばりカード”を作成し居室内に設置しご自分で排便があった時にスタンプを押していただくなどして確認につとめている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・昼・夕の食後に職員が介助、支援し口腔ケアを行っている。また週1回歯科医師と歯科衛生士による口腔ケアやご利用者様個々に合わせた口腔ケアの相談や指導をしていただいたりしている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏食傾向の方や、摂取量が少ない方にも、協力医療機関の医師より処方された経口栄養剤で補うようにしている。また、水分摂取は3食の時以外にも10時、3時のおやつ、入浴後、就寝前など個々に応じて摂取するよう支援している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、計画的に協力医療機関のインフルエンザの予防接種を行っている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・まな板・布巾等は、毎日消毒し、食材も毎日買い物に行き新鮮な食材を使用している。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ご利用者様・ご家族様が入りやすいように施錠せず自動ドアにしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室や居室にはご利用者様と職員とで散歩の時に摘んできた花を飾ったりしている。また、季節の行事やイベントの飾りを作って壁に飾っている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の居室内は、個々の馴染みの物などがおかれ尋ねて来られたご家族様や友人と過ごせるよう椅子・ソファなどが置いてある。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にご家族のご希望があれば泊まっていたくことも可能。また、ご利用者様個々の趣味の創作物や、ご家族様の写真を飾ったりしてできる限り好きなようにしていただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日に数回換気を行い、冷暖房の強弱や温度調整を談話室・廊下・居室内をこまめにしている。また、居室内は個々に応じて快適に過ごしていただけるように配慮している。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の廊下を生かしてご利用者様個々の身体機能を活かして歩行訓練を行っている。また手すりを利用して立ち上がりの訓練も無理をしないように気をつけながら職員支援のもと行っている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	排泄の失敗等、羞恥心から混乱したりしないようにさりげなく対応するよう心掛けている。また、職員全員で情報の共有しできるだけ自立して暮らしていけるように手を出しすぎないように心掛け支援している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ご利用者様と職員は、一緒に建物の裏にある花壇で野菜、花を栽培したり、晴れた日にはベランダにて日向ぼっこしてお茶を飲んだりしている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 》①ほぼ全ての職員が 《 ○ 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 ○ 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない